

需要に応じた米生産で 米価・収入の安定を!!

= 「主食用米」 + 「非主食用米」 で経営を安定させましょう =



1 30・31年産米をとりまく情勢は
どうなっているの？

- 30年産の作付面積は拡大(全国で+16千ha)しています。
- 生産者手取りは上昇していますが、一方で需要量は大きく減少しています。



2 需要量はそんなに減少しているの？

- 人口減少や高齢化により、最近では年間10万トンを超える需要減少が続いています。
- 米価の変動がそれに拍車をかけています。



3 31年産へ向けてはどうすればよいの？

- 地域ごとの米価・所得目標をしっかりと考え、非主食用米にもしっかりと取り組み、主食用米とセットで、収入を確保することが大切です。
- 飼料用米・備蓄米は、早い段階で一定の収入を見通せます。

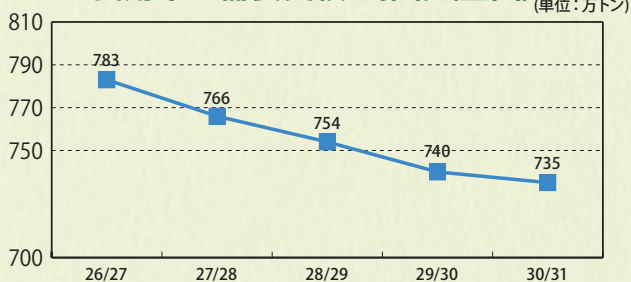


4 販売面はどうすればよいの？

- 実需者と向きあっているのは、方針作成者(集荷業者)です。
- 地域の方針作成者とよく相談し、販売と結びついた生産の徹底が大切です。

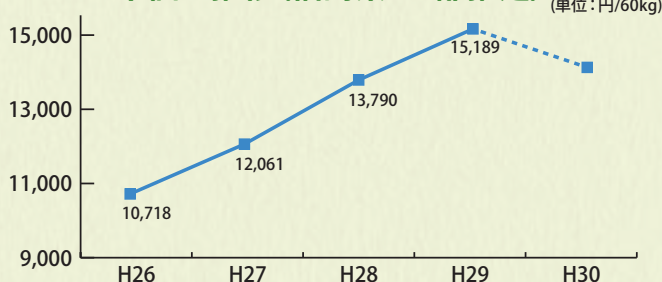


主食用米の需要実績の推移(全国)



資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」より

米価の推移(福島県・一部推定)



注) 農林水産省公表資料に基づき県推進会議が試算

区分	単位		金額	
全算入生産費	円/10a	A	115,504	29年産実績
物財費	円/10a	B	69,496	29年産実績
販売価格	円/60kg	C	15,200	29年産水準
流通経費	円/60kg	D	2,000	推定
生産者手取り	円/60kg	E=C-D	13,200	
単収	kg/10a	F	528	1.85mm
生産者手取り	円/10a	G=E*F/60	116,160	
生産費との差	円/10a	H=G-A	656	
物財費との差	円/10a	I=G-B	46,664	

注) 農林水産省公表資料に基づき県推進会議が試算

29年産並みの米価
であれば、全算入生
産費をほぼカバー
できます。



福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

福島県水田畑作課 〒960-8670 福島市杉妻町2番16号
TEL 024-521-7369 FAX 024-521-7942

JA福島中央会農業対策部 〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1
JA福島ビル9階
TEL 024-554-3072 FAX 024-554-6022